北海道小樽潮陵高等学校
１学年発行
第25号 2017 年 10 月 18 日(水)

１学年通信

copyright©2017
Otaru choryo highschool
all rights reserved.

知らないということを知る

･･･探究のきっかけ

２年生が見学旅行から帰ってきて、この週末に部活動などで先輩から土産話を聞いていることと思います。

予期してなかったハプニングも旅の醍醐味ですが、きちんと下調べをした上で研修に赴くといきなり見学するよりもたくさんの情報を得ることができるし、意味をわかっていると楽しさも倍増です。事前にきちんと予習していた２年生にとっては今回の見学旅行は有意義なものになったのではないでしょうか。

いまはインターネットの普及で、出発する前からその場にいるかのような風景をバーチャルで体験できるし、たとえ現地で迷っても、スマートフォンで地図や路線を検索できます。

自分の時を振り返ってみると、自主研修で使うバス停やバス時間などをしっかり調べ上げて計画表を作成したのを覚えています。実際はホテルから出発したとたん、バス停すら見つけられず通りすがりの方に訪ねるところから始まり、比叡山延暦寺まで足を伸ばしたのは良いが下山のバスに乗り遅れ、結局ホテルの帰着時間に遅刻するという大失敗をやらかした経験があります。

残念だったのは、行程計画のミスはもちろんですが、そもそも比叡山延暦寺を見学する意義をほとんど考えずに行ってしまったことです。延暦寺も銀閣寺も嵐山も哲学の道も、自分にとっては単に行程の１部分にすぎなかったわけです。これから訪れる見学地について「自分は何も知らない」ということに気づいていれば（たとえ遅刻したとしても）もっと有意義な研修になったのだと思わずにいられません。

そうそう、もうひとつの衝撃は、夕食時間に遅れて到着した我々の班を全クラスが食事せずに待っていたことでした。本当に申し訳ありません。

今後の予定

10/23（月）⑦数学プレ考査
10/25（水）科目選択予備調査票提出締切
10/28（土）進研総合模試
12/20（水）科目選択本調査票提出締切（原則）

高校生の部活事情

･･･もう一つの高文連

文芸部、吹奏楽局、音楽部、美術部、演劇部、図書局など文化系部活動の活躍が続いている。

10 月 12･13 日の２日間、帯広市で高文連理科部全道大会が開催され、見学に行ってきました。

全体講演のあと、物理・化学・生物・地学ごとの会場に分かれ、各校のプレゼンテーション（研究内容の発表）が行われます。「事前に提出した論文」「研究内容」「プレゼンのやり方」が審査の対象です。研究テーマの着眼点がとても高校生とは思えないような高度なものから、データ集めにすごく苦労したことが容易に想像できる緻密な実験を行ってきた高校など、たいへん興味深く見ることができました。

驚いたのは、プレゼンテーション後に行われる質疑応答です。他校の高校生から実験方法や考察方法に対するするどい質問が飛びだしたかと思えば、それにしっかり受け答えする発表者の回答などそのやりとりがとても活発でした。「〇枚目のスライドをもう一度見せてください。そのデータの横軸は･･･」などきちんと発表を見ていなければできない質問が、大会場・小会場問わず飛び出します。

２日目は、ポスターコンテストです。各校が研究内容をまとめたポスターを掲示し、その前で説明をしてくれます。ひとポスターごとに審査委員が巡回して審査をしていくのですが、こちらも与えられた時間で説明をし、質問にも答えなければなりません。発表者はほとんど１･２年生で、発表直前まで緊張の面持ちでストップウオッチ片手に発表の練習をしている姿が印象的でした。

生徒交流会は、参加者が一同に会してのクイズコーナー。当番校の帯広柏陽高校の生徒が上手にＭＣをつとめて全体が盛り上がっていました。

ここ数年、潮陵高校の理科部は研究発表をしていませんが、平成31年度の当番校業務に向けてぜひとも発表にも挑戦して欲しいものです。